

## 相談の多くは、物盗られ妄想

三郷の小さなつどい 5/18 (土) 13:30～

ほっとサロン・いきいき 参加者 25名

自己紹介の後、クリニックふれあい早稲田の大場先生から、この数年で介護についての考え方が本人を中心にする则ち変わってきている。物とられ妄想で疑われたりしても、いきなり否定せずと一緒に探すなど、困っている気持ちに寄り添うことが大切。まわりが何でもやって上げるのではなく、家事などできることをやってもらうことが大切だと話されました。話し合いのなかでは、物とられ妄想で困った方が何人もいました。

Sさんのは「物とられ妄想は病気が進行すれば治るのか」という質問に、大場先生から「大切な物だからという強い拘りがある。それでもしまった場所を忘れてしまうので盗られたとになってしまう。病気が進むと拘りが消えるので妄想もなくなる」と話がありました。

Mさんは、奥さんが硬い便をいじる行為に困っていたのが、解決したということでした。それは施設にお泊まりの時に、スタッフが排便の調節をしたことで、うまくいったそうです。便が出た時にすぐ処理をするとよかったようです。

---

次にTさんから「妻は薬を飲んでいるのにどんどん悪くなってしまう、薬は効かないのだろうか」と質問がありました。大場先生から、認知症は今のところ完治させる薬はない。症状を少し和らげる薬は現在、4種類出ている。それで、薬以外の方法で進行をできるだけ遅くしようというとりくみがあって、デイケアセンターなどでは、体を動かしたり、歌を歌ったりすることと、みんなで仕事を分担したりしていると話されました。